

八代市厚生会館の今後の方針

厚生会館は、著名な建築家により設計された近代建築であり、長年にわたり市民が文化芸術に触れ、感動し、発表することのできる本市文化の発信拠点として親しまれてきました。

また、伝承館設計段階では、両館の機能的連携を図るため、伝承館の供用開始に併せて厚生会館の再開を予定していました。

しかしながら、建設から58年が経過し、老朽化や関係法令の改正に伴う不適合などから様々な改修を要することとなり、劣化度調査の結果、すべての機能を再開した場合、その費用は現段階で約20億円が見込まれています。

さらに、本市の財政収支の今後の見通しでは、当面、財政運営上は楽観視できない状況であることに加え、令和2年7月豪雨災害からの復興、新型コロナウイルス感染症対策など喫緊の課題に直面しており、それらに対応するため、中期財政計画の見直しを行なうなど、今後の厳しさへの対応に迫られています。

これらの課題、八代市文化ホール等あり方検討会結果報告、及び市民アンケート結果等を踏まえ、慎重に検討した結果、今後の厚生会館に関する方針として以下のとおりとします。

- 八代市厚生会館は、ホール（劇場）としては再開しないものの、大規模な改修を必要としないスペースの活用可能性・方策について、民間提案制度などを含め、令和3年度中に検討を行うこととします。
- 厚生会館のホール機能停止が本市の文化振興・発展の妨げとならないように他ホール施設における自主文化事業等の更なる充実を図ります。
- 本市の文化振興・発展の拠点として、十分な客席数や設備を備えたホール施設は必要性が高いことから、ファシリティマネジメントの観点をふまえ、将来への負担やホール施設の統廃合等も総合的に勘案し、利便性や効率性を考慮したホール施設整備の検討も併せて行っていくこととします。